



安全教育の取組の充実に向けて

～大阪府・高槻市立第三中学校(SPS認証校)の取組から～





1

安全教育を推進していくための校内組織

< 第三中学校校務分掌表より抜粋 >

学校運営協議会

安全委員会

運営委員会

教務部

学年教務

研究部

特別支援

生徒指導

授業

総合的な学習

学校安全

情報・図書

⋮

校長
教頭
主幹教諭
教務主任
研究主任
安全CO

安全教育

・教育課程(学校安全計画)の策定・評価等に関すること

安全管理

・危機管理マニュアルの策定・見直し
・教職員による危機発生時対応訓練に関すること
・安全点検に関すること



2

安全教育の実践と評価

(1)安全教育の目標と評価規準の明確化

第三中学校における安全教育の体系

第三中学校区 めざす子ども像

- 【自立】自ら学び、判断して行動する子ども
- 【共生】人や社会とつながる子ども
- 【挑戦】未来を切り拓いていく子ども



第三中学校 学校教育目標

自立・共生・挑戦 ～進んで考え行動し、人とつながり、たくましく生きる生徒の育成～

安全教育の重点目標

「共助の精神を身に付ける」

学校安全計画(安全教育)



2

安全教育の実践と評価

(1)安全教育の目標と評価規準の明確化

(令和5年3月「高槻市 学校安全の推進に関する指針」より)

児童生徒等や学校、地域の実態及び児童生徒等の発達の段階を考慮して、**学校園の特色を生かした目標や指導の重点**を計画し、学校教育活動全体を通じて、**教科等横断的な視点で**関連性を持たせながら安全教育を実施する。

第三中学校区 めざす子ども像
【自立】自ら学び、判断して行動する子ども
【共生】人や社会とつながる子ども
【挑戦】未来を切り拓いていく子ども

第三中学校 学校教育目標

自立・共生・挑戦 ～進んで考え行動し、人とつながり、たくましく生きる生徒の育成～

安全教育の重点目標
「共助の精神を身に付ける」

学校園の特色を生かした
目標や指導の重点

学校安全計画(安全教育)

(第三中学校における安全教育の体系)

教科等横断的な視点で



2

安全教育の実践と評価

(1)安全教育の目標と評価規準の明確化

(第三中学校区<学校安全協働学区>における発達段階ごとの中期目標)

	発達段階	中期目標
生活安全	後期 (中2～3年)	■ 自他の安全 を考えることを通して、よりよい安全な 社会を築いていこう とする資質・能力を育成する。
	中期 (小5～中1年)	■ 日常生活で起こる事件・事故の内容や発生原因を理解し、 自他の安全 について考え、自ら判断して安全に行動できる資質・能力を育成する。
	前期 (小1～4年)	□ 日常生活で起こる事件・事故の内容や発生原因を理解し、実生活の中で安全に行動できる資質・能力を育成する。
交通安全	全年齢 (小1～中3年)	■ 交通ルールを遵守し、 歩行者、運転者の双方からの視点 を踏まえた総合的な危険予測能力・危険回避能力を育成する。
災害安全	後期 (中2～3年)	■ 自然災害についての知識や理解を深めるとともに、自助・ 共助の力 を高めることで、防災について自ら適切な意思決定および行動ができる資質・能力を育成する。
	中期 (小5～中1年)	■ 自然災害についての知識や理解を深めるとともに、自助・ 共助の力 を高めることで、防災について適切な意思決定および行動ができる資質・能力を育成する。
	前期 (小1～4年)	□ 自然災害について知り、自助の力を高めることで、防災について適切な意思けっておよび行動ができる資質・能力を育成する。



2

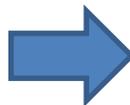
安全教育の実践と評価

(1)安全教育の目標と評価規準の明確化

義務教育における段階的な資質・能力の育成

各発達段階で育成する資質・能力の例

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
前期 (小1～4年)	災害や事件・事故等の危険について理解し、それらの危険を防止するための方法や自分の身を守るための方法について理解することができる。	日常生活や災害時等に、自分の身を守るための行動を考えて、適切に選択および判断することができる。	自身と身の周りの人たちの安全のための活動に自分で取り組むことができる。
中期 (小5～中1年)	災害や事件・事故等の危険について理解し、それらの危険を防止する方法や自他の身を守るための方法について理解することができる。また、簡単なケガの手当てをすることができる。	日常生活や災害時等における安全な状況を判断するとともに、周りの人の安全についても考えることができる。	自身、学校、家庭の安全のための活動に自分で取り組むことができる。
後期 (中2～3年)	災害や事件・事故等のメカニズムの基礎、地域の安全上の課題とその改善、日常の備えや災害時の助け合いの大切さを理解することができる。また、心肺蘇生等の応急手当をすることができる。	日常生活や災害時等における危険を予測し、自他の安全のための適切な行動について考え、判断することができる。	自身、学校、家庭及び地域社会の安全のための活動に主体的に参加、協力することができる。



観点別評価規準(例)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期 (小1～4年)	<ul style="list-style-type: none"> 安全に行動することの大切さや意義を理解し、日常生活において安全な行動をとることができる。 緊急時の避難行動の仕方を知り、自分で自分の身を守る行動をとることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全を保持するために、自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで安全な行動をとろうとしている。 自分の生命を大切にしようとしている。 自ら進んで安全で安心な学校、家庭づくりに参加・協力しようとしている。
中期 (小5～中1年)	<ul style="list-style-type: none"> 安全に行動することの大切さや危険の要因、事故等の防止について理解するとともに、日常生活における危険を予測し、自己や他者の安全を保持する行動をとることができる。 状況に応じた避難行動を理解し、危険を回避する行動をとることができる。 簡単な応急手当や、心のケアについて理解し、行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全に関する問題に自ら気付き、よりよい解決方法を考えることができる。 安全を保持するために、適切な意思決定や行動選択を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 周りの人の安全にも配慮し、進んで安全な行動をとろうとしている。 自分や他の生命を尊重しようとしている。 自らが進んで安全で安心な社会づくりに参加し、協力しようとしている。
後期 (中2～3年)	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害等の現状、原因及び減災についての理解を深めることができる。 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識することができる。 応急手当の意義や方法について理解し、行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在及び将来に直面する災害などの危機事象に対し、的確な思考、判断に基づく適切な意思決定や行動選択を行うことができる。 危機事象による被害の軽減、危機事象発生後の自他の生活を考え、備えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 周りの人の安全にも配慮し、進んで安全な行動をとろうとしている。 自分や他の生命を尊重しようとしている。 自らが進んで安全で安心な社会づくりに参加し、貢献しようとしている。

(高槻市教育委員会作成)「学校安全の手引」より

**【①授業(教科等)の評価】**

- 1コマや1単元等の授業を通して生徒の学習状況を点検・評価

評価の方法

- ・各教科の評価方法に準ずる
- ・ポートフォリオ、レポート、作品、ペーパーテスト、実習等

各教科の評価規準・評価の方法
→安全教育の評価へ

指導と評価の一体化

- ・生徒の学習改善
- ・教師の指導改善



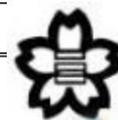
2

安全教育の実践と評価

(2)安全教育の実践と学習状況の評価

<第三中学校学校安全計画より抜粋>

	第一学年	第二学年	第三学年
国語	情報を関係づける (防災に関するデータ)		
社会		日本のさまざまな地域 (ハザードマップ・防災マップ) (自宅周辺の避難場所などの確認)	これからの経済と社会 (公害の防止)
数学			
理科		天気 (ゲリラ豪雨のサイン) 化学変化 (水質の安全・安全な化学実験) 電気 (電流火災・避難時のブレーカーの扱い方)	運動とエネルギー (自転車衝突時のエネルギー) (安全な自転車の乗り)
音楽	音の鳴る信号機ゲーム		
美術		幼児と遊ぶおもちゃ作製 (安全にするためのディスカッション)	
保健体育	中学校保健体育科の授業の受け方	運動やスポーツの安全な行い方	健康と環境 (環境への適応能力、活動に関する環境) (熱中症の予防と手当、水の衛生的管理)
	プール授業前の水の特性 (川・海・プールのちがいを)		



安全教育副読本「たかつき安全NOTE」を用いて行う教科会議の様子



(高槻市教育委員会作成)



2 安全教育の実践と評価

(2) 安全教育の実践と学習状況の評価

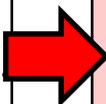
<理科(天気の変化)> 【めあて】雲の発生について気圧や気温の変化と関連付けて理解しよう。



雲の発生についての知識を習得
・発達した積乱雲が引き起こす気象災害とその危険回避について

理科における本単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2年	○気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象要素、気象観測についての基本的な概念や原理・法則等を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験等に関する基本操作や記録等の基本的な技能を身に付けている。	○気象観測について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験等を行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化についての規則性や関係性を見いだして表現するなど、科学的に探究している。	○気象観測に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている



安全教育における観点別評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期(中2,3年)	○自然災害等の現状、原因及び減災についての理解を深めることができる。 ○自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識することができる。 ○応急手当の意義や方法について理解し、行うことができる。	○現在及び将来に直面する災害などの危機事象に対し、的確な思考、判断に基づく適切な意思決定や行動選択を行うことができる。 ○危機事象による被害の軽減、危機事象発生後の自他の生活を考え、備えることができる。	○周りの人の安全にも配慮し、進んで安全な行動をとろうとしている。 ○自分や他の生命を尊重しようとしている。 ○自らが進んで安全で安心な社会づくりに参加し、貢献しようとしている。



2

安全教育の実践と評価

(2) 安全教育の実践と学習状況の評価

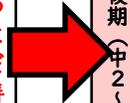
<技術・家庭科[家庭分野](幼児の生活と家族)>【めあて】幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫しよう。



幼児とのふれあい実習
・校区内の保育所と協働して
水害避難訓練を実施

技術・家庭科(家庭分野)における本単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児の発達と生活の特徴が分かり、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解している。 ○ 幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。



安全教育における観点別評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期(中2～3年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然災害等の現状、原因及び減災についての理解を深めることができる。 ○ 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識することができる。 ○ 応急手当の意義や方法について理解し、行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在及び将来に直面する災害などの危機事象に対し、的確な思考、判断に基づく適切な意思決定や行動選択を行うことができる。 ○ 危機事象による被害の軽減、危機事象発生後の自他の生活を考え、備えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 周りの人の安全にも配慮し、進んで安全な行動をとろうとしている。 ○ 自分や他の生命を尊重しようとしている。 ○ 自らが進んで安全で安心な社会づくりに参加し、貢献しようとしている。



2

安全教育の実践と評価

(2) 安全教育の実践と学習状況の評価

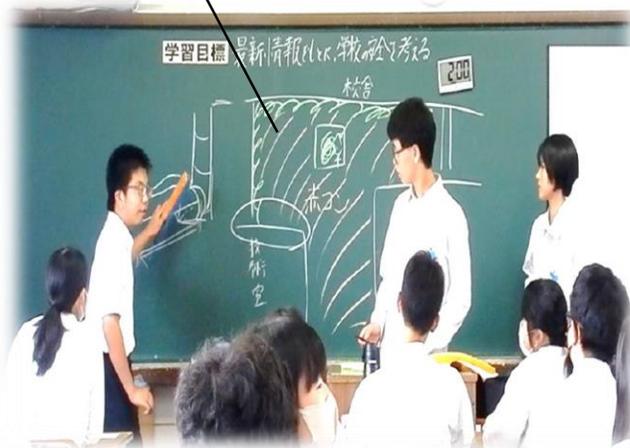
< 特別活動(生徒会活動) > 安全委員会による生徒主体の取組



【校内の事故防止】
・生徒目線での安全点検結果をもとに、学校の安全を考えることで生徒の安全意識の向上へ



【熱中症予防】
・熱中症事故の防止に向けた対策や熱中症への対応について情報発信



【避難訓練の振り返り】
・不審者避難訓練実施後に、生徒目線での課題改善を実施し、共有



2

安全教育の実践と評価

(2)安全教育の実践と学習状況の評価

<安全連携(協働的な取組)> 共助の精神を育成するために



【地域清掃】
・地域行事の清掃活動に参加し、安全・安心な地域づくりへ



【防災イベント】
・校区内の小学校で開催された地域行事へ参加し、防災意識の向上へ



【小学生との協働活動】
・校区の小学校を訪問し、安全教育授業の実施および支援
(保護者・地域へ公開)



【②質問紙調査】

■学校安全アンケート

生徒および教職員の取組等を通じた安全意識の変容を図るアンケート調査を中学校区で年3回実施。

■学校教育自己診断アンケート

保護者・生徒を対象にした調査。授業の理解度や保護者・生徒の意見および要望の把握のために年1回実施。

生徒による自己評価結果



※比較して分析

教職員による評価結果

<質問紙項目の一例>

(生徒用)事故やケガを防ぐためにはどうすればよいかわかる。
(教職員用)生徒は、事故やケガを防ぐためにどうすればよいか理解している。

学校評価の一環として実施
→教育課程の改善へ



2

安全教育の実践と評価

(3) 形成的に行う安全教育の評価

★中学生 学校安全アンケート

b7797nh@manabi.takatsuki-osk.ed.jp アカウントを切り替える

共有なし

災害や事件・事故が起こったとき、どのように行動すればよいかわかる

- あてはまる
- どちらかといえば、あてはまる
- どちらかといえば、あてはまらない
- あてはまらない

事故やケガを防ぐためにどうすればよいかわかる

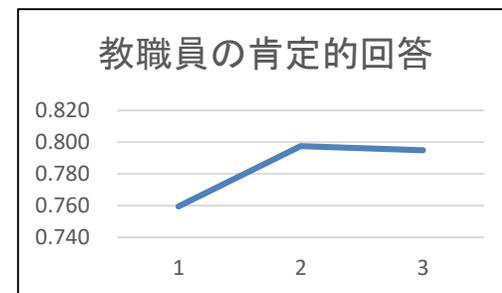
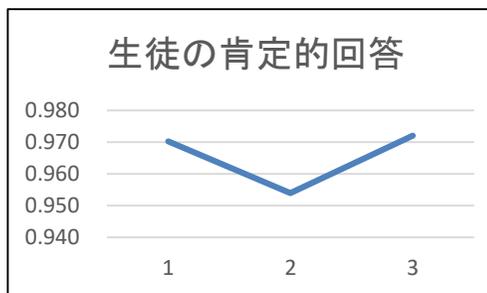
- あてはまる
- どちらかといえば、あてはまる
- どちらかといえば、あてはまらない
- あてはまらない

(生徒用)

■生活の中で自分の状況が安全か危険か判断することができる。
(「思考・判断・表現」の観点における評価の参考)

(教職員用)

□生徒は、生活の中で自分の状況が安全か危険か判断することができる。



○生徒は95%以上の肯定的回答に対して、教職員は80%弱程度の回答である。
→安全教育の目標やめざす姿を生徒と教職員で十分に共有できていないのでは？

○形成的な視点で考えると生徒と教職員の回答の傾向が真逆である。
→生徒のよい点や進捗の状況などについて評価したことを、適切に生徒にフィードバックできていないのでは？



2

安全教育の実践と評価

(4) 包括的に行う安全教育の評価

①

②

【③学校安全計画の見直し】

■年2回(中間・年度末)の振り返りを通して、組織的に取組を評価し、計画の改善へ

評価の方法

- ・①、②を包括的に
- ・学校生活における生徒の行動観察
- ・外傷による保健室来室数
および日本スポーツ振興センター災害共済給付金申請数

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1. 安全	安全委員会の活動											
2. 防災	防災訓練の実施											
3. 交通安全	交通安全教育の実施											
4. 水防	水防教育の実施											
5. その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他

～学校安全計画～

- ・中期目標、重点目標を意識して指導計画をブラッシュアップ
- ・校内のヒヤリハット事例をもとにしたケガ防止対策や取組の充実
- ・生徒(安全委員会)主体の安全教育取組の充実
- ・実践的な避難訓練の実施に向けた取組内容等の見直し

～評価の方法について～

- ・領域および観点別に学習状況を評価できるよう意識調査項目の改善
- ・学校関係者評価(コミュニティ・スクール)等を効果的に取り入れるための工夫



2

安全教育の実践と評価

意識調査(領域・観点別学習状況調査)

		前期 (小1～4年)	中期 (小5～中1年)	後期 (中2～3年)
知識・技能	生活安全	事件やけがを負う事故にあわないようにするためには、どうすればよいか理解している。	事件やけがを負う事故の危険性や、危険から身を守るための方法を理解している。	事件やけがを負う事故が起こる原因やそれらを回避するための方法を理解している。
	災害安全	災害による危険性や危険から自分の身を守るための方法を理解している。	災害による危険性や危険から自分や周りの人を守るための方法を理解している。	災害が発生する原因や災害から自他を守るための方法について理解している。
	交通安全	交通事故にあわないためには、どんなことに気を付ければよいか理解している。	交通事故が起こる原因やそれを回避するための方法を理解している。	交通事故が起こる原因やそれを回避するための方法を理解している。
思考・判断・表現	生活安全	事件や事故の被害にあわないためにはどうすればよいか考えて行動することができる。	事件や事故の被害にあわないためにはどうすればよいか考えて行動したり、周りの人の安全についても考えることができる。	自分や周りの人が事件や事故の被害にあわないためにはどうすればよいかを考えて、安全な行動を意思決定している。
	災害安全	災害から自分の安全を守るための方法を適切に判断できる。	災害から自他の安全を守るための方法を適切に判断できる。	災害から自他の安全を守るための方法を適切に判断できる。
	交通安全	交通事故の被害にあわないためにはどうすればよいか考えて行動することができる。	交通事故の被害にあわないためにはどうすればよいか考えて行動したり、周りの人の交通安全についても考えることができる。	自分や周りの人が交通事故の被害にあわないためにはどうすればよいかを考えて、安全な行動を意思決定している。
主体的に学習に取り組む態度	自分	自分は安全に安心して過ごせるように気を付けている。	自分は安全に安心して過ごせるように気を付けている。	自分は安全に安心して過ごせるように気を付けている。
	友達や周りの人	友達や周りの人が安全に安心して過ごせるように気を付けている。	友達や周りの人が安全に安心して過ごせるように気を付けている。	友達や周りの人が安全に安心して過ごせるように気を付けている。
	地域の人たち			地域の人たちが安全で安心して過ごせるような活動に、参加・協力しようとしている。
家庭連携	備え	家に災害に備えて非常用の持ち物や食べ物を用意している。	家に災害に備えて非常用の持ち物や食べ物を用意している。	家に災害に備えて非常用の持ち物や食べ物を用意している。
	話し合い	外出中に災害が起こった時に、待ち合わせをする場所等を家の人と話して決めている。	外出中に災害が起こった時に、待ち合わせをする場所等を家の人と話して決めている。	外出中に災害が起こった時に、待ち合わせをする場所等を家の人と話して決めている。
	学び	安全について学んだことや訓練でわかったことを、家の人と話している。	安全について学んだことや訓練でわかったことを、家の人と話している。	安全について学んだことや訓練でわかったことを、家の人と話している。

(高槻市教育委員会作成)「学校安全の手引 巻末資料」より



【①授業(教科等)評価】

- 1コマや1単元等の授業を通して生徒の学習状況を点検・評価

評価の方法

- ・各教科の評価方法に準ずる
- ・ポートフォリオ、レポート、作品、ペーパーテスト、実習等

【②質問紙調査】

- 学校安全アンケート
生徒および教職員の取組等を通じた安全意識の変容を図るアンケート調査を年3回実施

- 学校教育自己診断アンケート
保護者・生徒を対象にした調査。授業の理解度や保護者・生徒の意見および要望の把握のために年1回実施

【③学校安全計画の見直し】

- 年2回(中間・年度末)の振り返りを通して、組織的に取組を評価し、計画の改善へ

評価の方法

- ・①、②を包括的に
- ・学校生活における生徒の行動観察
- ・外傷による保健室来室数および日本スポーツ振興センター災害共済給付金申請数

全ての生徒が安全教育の目標を達成するために行う評価

教育課程の改善のために行う安全教育の評価

目標・めざす子ども像